2026
WINTER

開発教育地域セミナー2026 INやまがた

みんなの『やりたい』で動かす 一歩進んだ地域と学校のかたち

12/19 土曜日　10:00~17:00

基調講演　もっと柔軟に自由に教育を



講師　豊田哲雄さん

大阪府の公立小学校勤務
特定非営利活動法人 School Voice Project理事

子どもたちとの日々の実践を大切にしながら
学校や教育のあり方を追い求めている。
執筆や講演など多方面で活躍中。

SEMINAR SCHEDULE



10:00　開会

基調講演
もっと柔軟に自由に教育を
参加者との質疑応答

11:45　お昼の時間
教材販売



12:20　ミニワークショップ
優しい日本語

13:30　３つの分科会
豊田実践の「衝撃」の本質とは？
ある日突然、外国の転校生がやってきた！
外国人のリアルな声から、山形を考えよう

16:00　セミナーをふりかえる全体会
交流会

17:00　閉会



■対象者
高校生・大学生
テーマに関心のある一般市民のどなたでも
山形県以外の方もご参加いただけます

■参加費
一般2,000円、DEAR会員1,000円
学生500円
＊　**県駐車場料金の補助があります。**

■会場
山形県生涯学習センター３階第１研修室



ぜひご参加ください

お申し込みはこちら→

お問合せ：認定NPO法人IVY　阿部(E-mail：abe@ivyjapan.org)

共　　催　：開発教育地域セミナーin山形実行委員会、認定NPO法人IVY、認定特定非営利活動法人開発教育協会
助　　成　：一般財団法人国際協力システム
後援(予定)：山形県教育委員会、公益財団法人山形県国際交流協会、独立行政法人国際協力機構　東北センター

基調講演講師
豊田さんも
参加します！

魅力的な３つの分科会！
13：30～16：00
同時に行います



会場：第１研修室(３階)

［第１分科会］

豊田実践の「衝撃」の本質とは？
豊田実践から見えてくるもの
ー学校の「あたりまえ」を問い直すー

●午前の豊田哲雄さんの実践報告を、皆さんはどのように受け止めるでしょうか。
一見すると、これまでの学校の「あたりまえ」から大きく離れているように映る豊田さんの実践。しかしその一つ一つをたどっていくと、こどもの権利をどう保障し、一人ひとりの意思や選択をどう尊重するかという問いが見えてきます。

●本分科会では、午前の講演を通して感じた驚きや戸惑い、共感などを持ち寄り「なぜ自分はそう感じたのか」を参加者同士で言葉にしていきます。その「衝撃」の背景には、私たち自身が無意識に持っている学校観、教師観、こども観があるかもしれません。

●豊田実践をそのまま取り入れることを目指すのではなく、それを鏡として自分たちの「あたりまえ」を問い直し、それぞれの学級や学校で、こどもの権利を大切にするために何ができるのかを考えます。

アドバイザー：豊田哲雄さん(大阪府小学校教員)
進行：二戸部優(天童市公立学校教員)
工藤美季(ファシリテータ&教員コンサルタント
/スクールボイスプロジェクト理事)



会場：第２研修室(３階)

［第２分科会］

「ある日突然、外国の転校生がやってきた！」
さあ、どうする？
ーみんなで考えよう！必要な支援とは？ー

●令和７年度文部科学省調査(最新)によると、山形県内で日本語指導を必要とする児童生徒数は前回調査(R5)から１.４倍に増加し、県内１９市町村に在籍しています。

●外国につながる子どもたちは、本人の意思に関係なく様々な事情で日本にやって来ます。彼らが安心して学校生活を送るためには、学校・教育委員会・地域が連携した支援体制が不可欠です。現場からは「どうやって支援すればいいのか」「タブレット翻訳だけで大丈夫なのか」といった切実な声も聞かれます。

●本分科会では、これまでの支援事例をもとに、受け入れ時の準備や必要な支援、在籍学級でできることなどについて、参加者の皆さんと一緒に考えます。学校関係者、教育委員会、外国につながる子どもの支援に関心のある皆さんの参加をお待ちしています。

進行：長藤節子(山形こども日本語サポートネット)
事例紹介：黒崎敬子（山形こども日本語サポートネット）



会場：学習室(２階)

［第３分科会］

外国人のリアルな声から、山形を考えよう

●山形県内に暮らす外国人は１万人を超え、地域や学校、職場で共に過ごす機会が増えています。彼らは地域社会や暮らしを支えるパートナーとして不可欠な存在である一方、制度や教育、生活環境などの受け入れ体制や理解は十分とは言えません。

●大都市圏などの集住地域とは異なり、山形では外国ルーツの人々が「点在(散在)」して暮らしています。同国人同士のコミュニティがほとんど存在しないため、情報が行き届きにくく、孤立感を抱いたまま暮らしているのが現状です。

●本分科会では、日本人が大半を占める地域で暮らす外国ルーツの方々に参加いただき「生の言葉」に耳を傾けます。制度だけでは解決できない日常のリアルな葛藤や壁を知ることは、私たちが無意識に抱いていた固定観念や前提に気づくきっかけになります。

●私たち一人ひとりが彼らの葛藤を受け止め、どのように助け合っていくべきなのか。参加者の皆さんと共に、これからの共生の形を探っていきます。

進行：大沼文香(みちくさ子ども食堂代表)
二戸部直子(山形多文化子育てカフェPastel)



お昼の時間(12:20~13:10)
ミニワークショップ

会場：第１研修室(３階)

「やさしい日本語」
その日本語、伝わる？

簡単な日本語ほど、外国の方に伝わるように「やさしく」言い換えるのは難しい！
大学の授業でそれを実感しました。

わたしたち日本人が何気なく使っている言葉を海外の人にも伝わる「やさしい日本語」に！
大学生と一緒にチャレンジしませんか？

進行役：藤田すず・白幡晃子(山形大学１年生)